

B13b

光・赤外線天文学大学間連携による短期滞在実習プログラムの実施 II

大朝由美子 (埼玉大学)、高橋隼、高木悠平、本田敏志 (兵庫県立大学)、秋田谷洋 (広島大学)、黒田大介、泉浦秀行、筒井寛典、関口和寛 (国立天文台)、橋本修 (ぐんま天文台)、渡辺誠 (北海道大学)、諸隈智貴 (東京大学)、斉藤嘉彦 (東京工業大学)、村田勝寛 (名古屋大学)、野上大作 (京都大学)、永山貴宏 (鹿児島大学)、光・赤外線天文学大学間連携観測チーム

「大学間連携による光・赤外線天文学研究教育拠点のネットワーク構築」事業では、平成 25 年度から、光赤外大学間連携の参加機関に所属する大学院生や若手研究者を対象とした短期滞在実習プログラムを実施している。本プログラムは、自身の所属する機関以外の望遠鏡や観測装置を利用する、もしくは、観測装置や観測システムの開発に関わる機会を提供する。参加者は自身の学びたい内容に合わせて、光赤外大学間連携の参加機関から滞在先を選択し、数日から 1 週間程度滞在しながら、各自が設定したテーマに関する簡単なインストラクションを受けることができる。「これまで撮像観測しかしたことがないが、分光観測を学びたい」、「これから装置開発を行なうので実習を通して学びたい」といった要望を持った学生等の参加を想定している。本プログラムによって、参加者の研究の幅が広がり、各自の研究が発展することが期待される。

平成 25 年度は、5 名の大学院生が、岡山天体物理観測所、兵庫県立大学西はりま天文台、広島大学東広島天文台、群馬県立ぐんま天文台に滞在した。実習の分野は、観測システム開発 1 件、可視近赤外線分光 4 件であった。参加者からは「現在行っている研究で問題となっていたことが解決した」、「今振り返ってみると、この実習で得られたものはとても大きく、実習後に活かされている」といった感想を得ている。平成 26 年度も継続して本プログラムを実施する。本講演では最新の実施状況を報告し、成果や課題、今後の展開についても言及する。